

2017 年度コープまなびのわ・食の安全——株式会社コモ 質問と回答

ひじき	<p>《 質問 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産地は国産という表示ではなく、国産の詳しい産地まで記入してほしいです。
	<p>《 回答 》</p> <p>産地は正確には「山口、愛媛、長崎、大分、鹿児島」の 5 県です。これを仕入れる際に産地の指定ができないことにより、組合員様のもとへお届けできる産地も上記 5 県のいずれかということしかお伝え出来ないため、表示は国産とさせて頂いております。</p>
	<p>《 質問 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミネラル分はどの程度残っているのでしょうか。
	<p>《 回答 》</p> <p>ひじきドライパック 100g 当たり約 1.0g のミネラル分が含まれております。そのため、製品中には、缶ですと 1g 強、パウチですと 0.5g 程度のミネラル分が残っています。</p>
	<p>《 質問 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひじき缶の目新しいメニュー提案をしてもらえると助かります。
	<p>《 回答 》</p> <p>ドライパックの特長を生かしたメニュー提案ができるよう努力を続けております。煮物以外のメニューでは、白和えベースと和えるだけの簡単レシピや炊き込みご飯を炊いておき炊けた後にひじきを混ぜ込んでしまうレシピがおすすめてです。</p>
大豆	<p>《 質問 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大豆の品種が知りたいです。
	<p>《 回答 》</p> <p>北海道産の「トヨマサリ」という品種を使用しています。良い色が出るので外観が良いほか、他の品種に比べておいしさを感じる成分が多く含まれており、食味が良いです。</p>
	<p>《 質問 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大豆缶の製造工程は蒸すだけですか。水煮すると養分が水に溶けてしまうと思うので製造工程が知りたいです。
	<p>《 回答 》</p> <p>大豆缶の製造工程は、「乾物の大豆を水に浸漬→ボイル→缶に詰める→殺菌と同時に蒸しあげる」という流れになっています。この中で、ボイルの際には完全に煮上げておらず、蒸し上げる際に程よく熱が伝わるように製造を工夫しています。それにより、水煮にはないふっくらした食感を生み出しています。ボイルの際に灰汁が出ますのでえぐみがなくなりますが、この過程は必要最低限の時間で行っていますので、栄養分の溶け出しが抑えられています。</p>

<p>スィート コーン</p>	<p>《 質問 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーン缶は、国産原料で作れないのですか。 <p>《 回答 》</p> <p>国産原料で作ること自体は可能です。但し、国産原料は海外原料に比べて収穫量が少ないので、組合員様に供給できなくなる恐れがあること、また海外原料に比べてどうしても価格が上がってしまうことが予想されることから、現時点では製品化に至っていません。</p>
<p>賞味期限</p>	<p>《 質問 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賞味期限が切れてからどれくらい日持ちしますか。 <p>《 回答 》</p> <p>賞味期限が切れたものについては保証の対象外になってしまうので難しいですが、密閉状態が保たれていて適切な保管環境にある場合、最低 1 か月程度であれば健康危害は起こらないのではないかと考えています。しかし、容器内部では栄養分等の分解が進み、味や食感の劣化が進んでいくことが予想されるので、賞味期限内に喫食されることを強く推奨します。</p>
<p>容器</p>	<p>《 質問 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・缶のふたを開ける時、とても固くて音が大きいため、子どもがびっくりします。固いのは密閉度が高いということですか。 <p>《 回答 》</p> <p>ドライパックはそのふっくらした食感を出すために、缶の内部を高い真空状態にしています。そのため、缶の内外の圧力差により、缶ふたは内側に引っ張られるような状態になっており、開缶の際に固さや音の大きさを感じやすくなってしまいます。内部が高い真空下に置かれていることで、ふたが固くなっているとお考え下さい。</p> <p>《 質問 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スチール缶のゴミが捨てにくいので、アルミ缶に変更できないでしょうか。 <p>《 回答 》</p> <p>内部が高い真空状態にあるため、缶の内外の圧力差により缶本体は内側に引っ張られるような状態になっています。アルミ缶に比べてスチール缶は強度が高く、この引力に耐えられますが、現在のアルミ缶ですと耐えられず缶が凹んでしまいますので、現在の技術ではアルミ缶への変更は厳しいです。</p>

容器	<p>《 質問 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パウチと缶では中身に何か違いがあるのでしょうか。
	<p>《 回答 》</p> <p>パウチも缶も中身は同じと考えてください。原料は同一で、基本的な製造工程も変えておらず、仕上がりが同じになるようにしています。違うといえるのは、缶は内部の空気を吸い出し高い真空状態にしているのに対し、パウチの場合はそれができないので窒素ガスをパウチ内部に封入することで内部の空気を外へ追い出す工程を取っている部分です。</p>
	<p>《 質問 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災用として利用できるので保管しやすい形の缶があるといいのと思うのですが、この形しか難しいのでしょうか。
	<p>《 回答 》</p> <p>ご家庭で使って頂きやすい形を検討した結果、現在の缶の形状に落ち着きました。現在の製造ラインでは現行の縦長の缶の製造は可能ですが、ゆであずきの缶のように扁平な缶や特大の缶については機械が対応しておらず、製造することができません。</p>

以上